

# 2024年3月期 第3四半期決算 説明資料

2024年2月13日  
日本貨物鉄道株式会社

**1. 2024年3月期 第3四半期決算**

**2. 2024年3月期 業績見通し**

# 1. 2024年3月期 第3四半期決算

## 連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2023年3月期 第3四半期累計	2024年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業収益	1,401	1,404	+3	+0.2
営業費用	1,410	1,418	+7	+0.5
営業利益	-9	-14	-4	-
経常利益	-15	-7	+8	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-21	-7	+14	-

## 単体経営成績

営業収益	1,135	1,134	-0	-0.0
営業費用	1,159	1,166	+6	+0.6
営業利益	-24	-31	-7	-
経常利益	-31	-24	+6	-
四半期純利益	-30	-16	+14	-

- 連結営業収益は、運輸収入、マンション販売が前年を下回ったが、東京レールゲートEAST等建物貸付が堅調に推移し、全体では前年を上回った。
- 連結営業費用は、マンション販売の売上原価の減等があったが、原材料費高騰による経費増や減価償却費の増があり、全体では前年を上回った。
- 連結営業収益は、増収となったものの、連結営業費用の増加が上回ったため営業利益は前年を下回った。経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、移転協力金の受取等により赤字幅が改善。

# 1. 2024年3月期 第3四半期決算

## セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2023年3月期 第3四半期累計	2024年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	1,246	1,261	+14	+1.2
	営業利益	-95	-94	+1	-
不動産事業	営業収益	165	152	-13	-8.2
	営業利益	82	76	-6	-8.0
その他	営業収益	30	34	+4	+14.6
	営業利益	1	2	+0	+45.8

## (単体) 事業別状況

鉄道事業	営業収益	997	1,010	+13	+1.3
	営業費用	1,105	1,118	+12	+1.2
	営業利益	-107	-107	+0	-
関連事業	営業収益	137	123	-13	-10.0
	営業費用	54	48	-6	-11.7
	営業利益	83	75	-7	-8.8

- 鉄道ロジスティクス事業は、運輸収入は化学薬品・化学工業品の減送等により減収となったが、2022年7月に竣工した東京レールゲートEASTなど建物貸付が堅調に推移し増収増益。
- 不動産事業は、マンション販売が前年程なかった影響により減収減益。
- その他事業は、リース満了品、中古売却品の売上増等により増収増益。

# 1. 2024年3月期 第3四半期決算

## 連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 第3四半期実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,369	4,377	+8	流動資産 663億円 (対前期末 +29億円) 固定資産 3,713億円 (対前期末 -20億円)
負 債	3,408	3,422	+14	
純 資 産	960	954	-6	
自己資本比率	20.7%	20.5%	-0.2	

## 単体財政状態

資 産	4,022	3,997	-25	流動資産 456億円 (対前期末 -1億円) ・現金及び預金の減 -20億円 固定資産 3,540億円 (対前期末 -23億円) ・償却による減
負 債	3,357	3,348	-8	当期末長期債務2,089億円 (対前期末 +90億円) ・社債 300億円 (対前期末 +100億円) ・有利子借入 919億円 (対前期末 -33億円) ・無利子借入 869億円 (対前期末 +23億円) 第三セクター線路使用料未払金の減 -115億円
純 資 産	665	648	-16	

- 2023年6月にグリーンボンド（社債）を発行し100億円調達。
- 震災・大雨・噴火に対応したコミットメントライン（貸付限度額210億円）を継続。当期まで利用なし。

# 1. 2024年3月期 第3四半期決算

## 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2023年3月期 第3四半期累計	2024年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	60	75	+15	25.3
投資活動によるキャッシュ・フロー	-267	-184	+83	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	123	104	-19	-15.8
現金及び現金同等物の増減額	-83	-4	+78	—
現金及び現金同等物の期末残高	237	236	-1	-0.6

## 単体キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー	46	65	+19	41.4
投資活動によるキャッシュ・フロー	-238	-142	+95	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	92	56	-35	-38.2
現金及び現金同等物の増減額	-100	-20	+79	—
現金及び現金同等物の期末残高	126	121	-5	-4.4

- 連結の営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純損失の減少等により流入額が増加。投資活動によるキャッシュ・フローは、前年は東京レールゲートEAST等の大型案件があったことにより流出額が減少。財務活動によるキャッシュ・フローは、社債発行による収入が増加する一方で長期借入の返済等により流入額が減少。現金及び現金同等物は期首から4億円減少し、期末残高は236億円。

# 1. 2024年3月期 第3四半期決算

## 品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2023年3月期 第3四半期累計	2024年3月期 第3四半期累計	対前年同期	
			増減	%
輸送量	19,692	19,602	-90	-0.5
コンテナ	13,794	13,582	-211	-1.5
農産品・青果物	1,114	1,135	+20	+1.8
化学工業品	1,203	1,153	-49	-4.1
化学薬品	922	817	-105	-11.4
食料工業品	2,252	2,269	+16	+0.7
紙・パルプ	1,553	1,504	-48	-3.1
他工業品	986	936	-49	-5.1
積合せ貨物	2,368	2,395	+26	+1.1
自動車部品	487	526	+38	+7.8
家電・情報機器	263	266	+3	+1.2
工口関連物資	317	285	-31	-10.0
その他	2,323	2,291	-31	-1.4
車扱	5,898	6,019	+120	+2.0
石油	4,046	4,140	+94	+2.3
セメント・石灰石	927	991	+64	+6.9
車両	575	579	+3	+0.7
その他	350	308	-42	-12.0

- コンテナは、半導体不足の解消が進んだ自動車部品、EC貨物の取り込みや鉄道シフトの動きを受けた積み合せ貨物、ビールや清涼飲料水を中心に年末需要等が増加した食料工業品等が増送となったが、需要低迷による生産減となった化学薬品、ペーパーレス化による紙需要減となった紙・パルプ等が減送となりコンテナ全体では前年を下回った。車扱は、ガソリン、軽油を中心に荷動きが堅調に推移した石油と、セメント・石灰石が増送となり前年を上回った。コンテナ・車扱全体では、前年を下回った。

**1. 2024年3月期 第3四半期決算**

**2. 2024年3月期 業績見通し**

## 2. 2024年3月期 業績見通し

(単位：億円、単位未満切捨て)

### 連結

	2023年3月期 実績	2024年3月期 見通し	対前年同期		2024年3月期 前回見通し (2023.11.9)
			増減	%	
営業収益	1,876	1,883	+6	+0.3	1,937
営業利益	-36	-58	-21	-	-3
経常利益	-43	-52	-8	-	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	-40	-44	-3	-	1

### 単体

営業収益	1,522	1,524	+1	+0.1	1,582
営業利益	-54	-75	-20	-	-20
経常利益	-63	-69	-5	-	-15
当期純利益	-52	-54	-1	-	-8

- 連結営業収益は、物価上昇に伴う消費者の買い控えの影響などにより輸送量が低調に推移し、前回見通しから減収となるものの、年度末需要や物流の2024年問題を踏まえた営業活動の強化、及び東京レールゲートEASTの稼働の通期化により対前年では増収を見込む。
- 連結営業費用は、エネルギー価格や原材料価格の高騰に起因する単価上昇等により、対前年で増加を見込む。安全確保に向けた取組みは着実に実施する一方で、輸送量に応じた列車設定や機関車の検査周期の最適化などコスト削減も実施する。

〔当社グループの事業系統図〕

